

北井りかさんのガーデニング&菜園講座

この春から夏は、ご家庭で新鮮・採れたて野菜を味わってみませんか! 今回は、EM活性液と「コンパニオンプランツ」を利用してなるべく農薬を使わず限られたスペースで簡単に野菜づくりを楽しむ、EMプランター栽培を紹介します。

●文・イラスト:北井りか

第4回
簡単に
野菜づくりを
楽しむ

どこでも簡単、EMプランター栽培 ～EMとコンパニオンプランツを取り入れた夏野菜づくり～

※コンパニオンプランツとは、共存共栄関係のある植物同士のことをいいます。

育てて簡単、食べて美味しい、『マメ科野菜とのコンパニオンプランツ』

マメ科の根に共生する微生物(根粒菌)は、空気中から窒素を養分として土中に固定し、土壌を肥沃にしますので、マメ科の植物と他の野菜を混植栽培すると成長が良くなります。

【枝豆と野菜の組合せ】

「シントウ・ピーマン」との相性が良く成長を助けますし、「ジャガイモ・ナス」との混植は互いの成長を助け合います。セリ科の「ニンジン」との混植では、マメ科の植物がアゲハチョウを遠ざけ、セリ科の植物がカメムシを遠ざけるので、お互いを害虫から守り生育を促進させます。また、「セロリやパセリ」もセリ科なので、いろいろな組合せができて楽しめます。



【インゲンマメと野菜の組合せ】

「ジャガイモ・トマト・ナス・ピーマン」との相性が良く、互いに成長を助け合います。つる有りインゲンは、「ルッコラ(アブラナ科)」と混植すると互いに病害虫を忌避し合い、生育も良くなります。



【枝豆と花の組合せ】

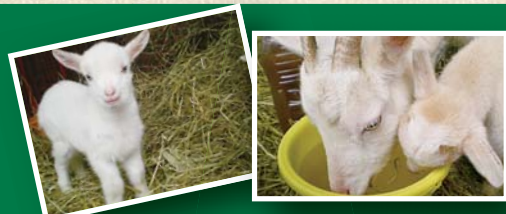
ヒマワリは、エダマメの害虫を遠ざけますので、背丈の低いミニヒマワリと合わせると見た目にもきれいな寄せ植えになります。



※注意点は、ネギ・ニラ類との混植は避けること。マメ科の根粒菌を遠ざけ生育を阻害します。

自ヤギ通信

春は、私のところで飼っているヤギ達もベビーラッシュ! 子ヤギたちは、EM活性液が入った水ががぶがぶ飲んで、お母さんのミルクをたくさん飲んで、元気いっぱいぴょんぴょんと飛び跳ねています。



北井りかさん

昭和48年11月25日生まれ。北海道女子短期大学 工芸美術科卒。園芸療法士の資格を取得後、人と環境に優しい園芸活動・循環型農業を目指し札幌から函館に移住。同じ園芸療法士で建築士でもあるパートナーと共に、新規就農認定を受け認定農業者として19年度より営農を開始する。自らデザインする「こやぎの丘 ガーデン ファーム」は、ワインベリーを主軸にブルーベリーなどの小果樹と、ハーブをはじめ草花と野菜が競演する庭園風の農園を目指しています。現在13匹の山羊がおり、堆肥作りにもEMを活用し果樹栽培・野菜栽培に役立っています。

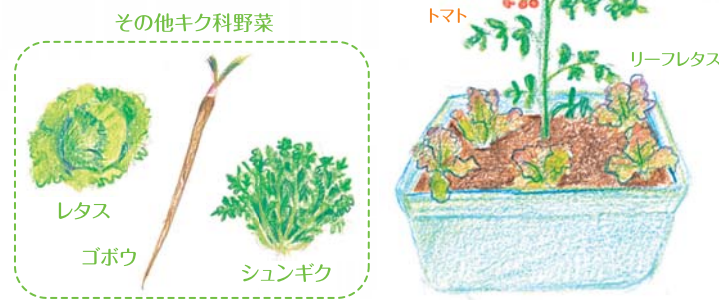
『見て楽しく、食べて美味しい、キク科野菜のハンギングバスケット』

ハンギングバスケット仕立ての野菜づくりは、それぞれ葉の形態の違いや微妙な色の差があって、見て楽しめますし、成長した外葉から採って食べることもできるので、一石二鳥です。

壁掛けタイプなのでちょっとしたスペースがあればOK!キク科の植物においては、害虫予防の効果があり食害に合いにくい植物なので、とても育てやすく、他の野菜・花との組合せ次第で素敵にまとまります。

【キク科野菜の組合せ】

キク科のレタス類と「キャベツ・ブロッコリー・コマツナ」などのアブラナ科の野菜と混植すると、お互いにアオムシ・コナガ・ヨトウムシなどの害虫を寄せ付けず、生育を助け合います。また、キク科と「トマト・ナス・ピーマン・ホウレンソウ」との相性もとても良いです。



【左】白にまとめたハンギングバスケットは、キク科のレタス・サンチュ・サニーレタスと「青じそ・ししとう」の野菜類や「ピオラクリサンセマム(キク科)・ツルニチニチソウ」の花と合わせました。
【右】赤にまとめたハンギングバスケットは、キク科のレタス・サニーレタス(レッド)・サンチュと「赤じそ・パセリ」の野菜類と濃い紫の花がきれいなオステオスペルマム(キク科)・ラミウム(シソ科)を合わせました。

『EM活性液の利用法』

家庭での野菜づくりは、できるだけ農薬や化学肥料は使わず、安全で美味しい野菜づくりを心がけたいものです。私の場合は、水やりの際にEM活性液の希釈水をかけ、土はEMセラミックス混合培養土を使用しています。

ペットボトルでEM活性液を作り、一昼夜置いた水で1000倍に希釈します。それを育苗時や管理時に与えるとともに、時々霧吹きなどで葉の裏表に葉面散布しています。

また、購入した「ポット苗」や、育苗した苗を定植するときには、EM活性液の希釈水の中にポット苗を浸して十分に給水させてから植え付けています。

EM活性液の希釈水での水やりの他に、EMほかし・EM生ゴミ発酵肥料で追肥。これらは培養土作りの際にもEMセラミックスともに混合し、微生物のバランスの良い土壌環境づくりを心がけています。



EM活性液の1000倍希釈液



●EM活性液の作り方はP27をご覧ください。